



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

ワイン用ブドウ栽培農家およびワイン生産者の農業情報インフラ構築における課題の抽出

鹿取 みゆき (かとり みゆき)

フリーランス／信州大学社会基盤研究センター(経法学部) フード&ワインジャーナリスト／特任教授



○ 登録者情報

所在地

東京都狛江市

略歴

1984年3月 東京大学教育学部教育心理学科卒業
1984年4月 株式会社ソニー入社
1989年 日本ソムリエ協会認定ワインアドバイザー取得、
1991年 アカデミー・デュ・ヴァン講師
1993年 株式会社ソニー退社。以降フリーランスで記事を書き出す
2010年 総説論文「日本におけるワインテイastingについて」が日本味とにおい学会誌 Article of the Year 2009を受賞
2015年 国税庁臨時審議員任命(地理的表示部会)、千曲川ワインアカデミー(日本ワイン農業研究所株式会社「アルカンヴィーニュ」)運営統括
信州大学特任教授(2015年～)
東京大学先端科学技術研究センター客員研究員(2016年～)
東京大学空間情報科学研究センター協力研究員(2010年～)
長野県「おいしい信州ふーど(風土)」大使(2015年7月～)
日本ワイン造り手の会 監査((現場の生産者の勉強会で毎年2月11日に勉強会を開催。2017年で13回目)
長野県農業情報インフラ研究会研究員
アカデミー・デュ・ヴァン講師

著書・論文等

2010年 総説論文「日本におけるワインテイastingについて」が日本味とにおい学会誌 Article of the Year 2009を受賞
2011年 『日本ワインガイド 純国産ワイナリーと造り手たち』(虹有社)を出版
2013年 『においと味わいの不思議「知ればもっとワインがおいしくなる」』共著(虹有社)を出版(共著:東京大学東原和成教授、京都大学伏木亨教授 農楽蔵醸造家佐々木佳津子)
週刊朝日にて「日本ワインの食卓」連載中
2017年『日本ワイン 99本』(プレジデント社)
『厳選日本ワイナリー & 日本ガイド』(世界文化社)(3月末出版予定)

○ ワイン用ブドウ栽培農家およびワイン生産者の農業情報インフラ構築における課題の抽出

取組の内容

長野県は日本のなかでももっともワイン産業の活発化した県であり、ここ10数年でワイナリー数は倍以上に増加しています。ワイン産業を支えるワイン用ブドウ栽培についても、近年、取り組むワイナリー、および新規就農者が増加中で、2016年の国税庁が発表した長野県のワイン用ブドウの受入数量(実質的なワイン用ブドウの収穫量)は6704トンに達し、すでに山梨県に逼迫している状況です。しかしながら、ワイン用ブドウ栽培における、農業情報のインフラ構築については、ようやく進んできましたが、栽培の現場における活用方法は個々の生産者、栽培農家に委ねられているというのが実態です。また、どのようなデータを蓄積し、どのような情報を提供することが現場に有益かについても知見が蓄積されていません。そのため、まずは現場の実態を把握すべく、長野県内のワイン生産者、ブドウ栽培農家を訪問し、現在現場で必要とされている農業情報が何なのを洗い出し、研究員の1人として参加している、長野県農業技術部の農業情報インフラ構築のための研究会で発表し、会のメンバーで情報を共有しました。一方、日本と同様の気象条件下でワイン産業を振興しているバージニア州のバージニア工科大学、ワイン生産の伝統国であるフランスのブルゴーニュ大学の研究者らとコンタクトをとり、日本に招聘し、病害や土壌の調査を実施しました。また、地域活性化にもつながる千曲川流域をワイン産地と発展・充実させていくため、ワインの地域ブランディングのプロジェクトマネージャーとしても活動を続けています。

実績

- ・ブドウ栽培の現場に即し、ワイン生産者およびブドウ栽培農家の要望に即した、ネットワークの設立の一助となりました(長野県は今年度の予算で農業情報インフラ構築のシステムづくりを始める:1500万円の予算)。また信州大学では、総務省からの補助金を獲得して、IOTを利用した農業情報のインフラ構築のための研究に本格的に取り組むことになりました。
- ・これを機に、バージニア工科大学のブドウ病理の研究者との繋がりができ、その研究者を招聘し、講演およびワークショップを実施することとなりました。
- ・世界各国の研究者との繋がりができました(ブルゴーニュ大学、カリフォルニア大学デービス校、バージニア工科大学)。
- ・各地方自治体での講演を実施しました。
 - 2016年8月 山形県上山市にて講演(生産者向けと一般向けの2回)
 - 2017年3月 長野県高山村にて講演(高山村・小布施町の両村町議会議員向け)

工夫した点や苦労した点

- ・現場の生産者自体が海外の事例についての情報を有しておらず、実際の利用方法についての具体的なイメージが湧きにくいため、あらかじめ具体的な事例紹介を行いました。
- ・課題の抽出と問題点を数量化のために、インタビューの際に質問紙を用意しました。
- ・海外におけるIoTを利用した研究事例を調べました。

ひとことPR

すでに13年間にわたり、現場の生産者が参加する「日本ワイン造り手の会」の運営に関わっているだけでなく、1年間に訪問するワイン生産者、ワイン用ブドウ栽培農家の数は延べ100軒近いため、すでに現場の生産者とのネットワークを持っており、生産者の生産現場の実態を把握しています。また海外の最新の生産現場の情報を入手するネットワークも持っています。これらを活用して、現場への情報提供および、提案が可能です。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

本人facebook	https://www.facebook.com/mivuki.katori.3
------------	---

連絡先

メールアドレス	mykkatori[アットマーク]gmail.com	その他	
---------	--	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。